

災害ごみ受け入れ

三重や愛知始まる

三重県の鈴木英敬知事は十一日の定例会見で、千曲川の氾濫で被災した長野県千曲市の災害廃棄物の県内への受け入れを開始したと説明した。長野市の災害廃棄物も受け入れる方向で調整を進めている。

県によると、両市では住宅に流れ込んだ泥などが家財に付着し、大量の災害廃棄物が発生。現地からの要請で八日に千曲市からの受け入れを始めた。長野市か

らは十月末に環境省を通じて打診があった。いずれも、実際の作業に当たる県産業廃棄物協会が「受け入れ可能」と判断した。

鈴木知事は「(二〇一一年九月の)紀伊半島豪雨で苦労した経験があり、三重では全国に先駆けて災害廃棄物処理のスペシャリストの養成をしてきた。これからも処理のサポートをしていきたい」と話した。

また、千曲市からの災害廃棄物受け入れを表明している愛知県は十一日、同市の仮置き場に県環境局の職員二人を派遣した。県によると、千曲市から処理を受託予定の県産業廃棄物協会の加盟業者が現地で同日から分別を始め、県職員は業者と市の調整などを担う。業者は水没した家具や畳などを分別した後、愛知県内に搬入。廃棄物は焼却処分やリサイクルに回す。早ければ今週中に県内への搬送が始まる。